

時

論

## ソヴェート第二次五個年計畫

南 亮 三 郎

### 序——第二次五個年計畫への躍進

ソヴェート同盟の五個年計畫（一九二八—三二年）はこの十二月三十一日をもつてその任務を完了する。當初の豫定では一九二八年十月一日から一九三三年九月三十日迄の滿五個年にわたる筈であつたが、第一年度における豫想外の好成績は「五個年計畫を四個年に」完了し得るの見透しを與へ、事實上四年と三個月の日子をもつて所期の目的を「單に成就したばかりでなく、成就してなほ剩りある」底の成果を收めしめるに至つた。だが、社會主義的建設を目ざすソヴェート同盟にとつてこの五個年計畫は、たとひ「成功裡」に遂行されえた

にしろ決して、これによりその全目的が達成されえたことを意味しない。五個年計畫は社會主義的全建造物の、謂はば單なる土臺の築造でしかなかつた。より積極的なる、より全域的なる社會主義的建設は、それに引續いて行はるべき第二次、第三次の五個年計畫において期待せらるべきであるのは云ふを俟たない。事實ソヴェート同盟は、來る一九三三年一月一日から第二次五個年計畫へと躍進を續けるのである。

ソヴェート第二次五個年計畫は、階級なき社會の建設を基本的任務としてゐる。即ちそこでは、資本主義的諸要素及び階級一般の終結的掃蕩、經濟における及び人間の意識における資本主義的殘滓の決定的克服が最重要なる實踐的任務として確定せられ、労働者と農民との階級差別の根本的止揚さへ意圖せられて居る。第二次五個年計畫の遂行をまつて、良かれ悪しかれ人は初めて「社會主義社會」を地上に見ることが出來よう。第二次五個年計畫の基本任務が異常なる世界史的意義を有すとせらるゝのはこの爲めである。

しからばソヴェート第二次五個年計畫とは何か、それは第一次五個年計畫の諸成果とどう關聯するか、その基本任務が有する異常なる世界史的意義とは何か。これに最も適切なる回答を與へるものと思はれるのは、最近に發表せられた次の二論文である。

一、ルウダス『マルクス主義レーニン主義の戰勝行進』(L. Rudas, Der Siegeszug des Marxismus-Leninismus, in: Unter d. Banner d. Marxismus VI. Jahrg. 1. Hefte, Juni 1932. S. 1—18)

二、クスネツォーフ『階級なき社會の建設——第二次五個年計畫の基本任務』(J. Kusnetzow, Der Aufbau der

右の二論文は内容上重複する個所もあり、また日本語による公表を憚らねばならぬ部分も少くないと案ぜられるが、能ふ限りそれらの部分を回避、或は抹殺しながら、先づ左にその各々の要旨を摘録してソヴェート經濟の本質研究へ役立たしめよう。

### 一、『マルクス主義』レーニン主義の戦勝行進』

第十七回黨大會が一九三三年に始まる次の五個年に向つて樹立した目標はかうだ——「資本主義的諸要素及び諸階級一般の終局的掃蕩、階級差別と搾取とを醸成する諸原因の完全なる廢絶、經濟における及び人間の意識における資本主義の殘滓の克服、この國の全勤勞人口の、階級なき社會主義社會の意識的且つ發動的建設者への轉化」。今日迄の社會主義的建設の、及び特に第一次五個年計畫の意義は、その巨大なる成功がロシア・プロレタリアートをして、階級なき社會の建設を早くも目捷に迫つた時期において實踐的任務としてとり入れ且つ實行することを可能ならしめた點にある。そしてそれは事實上、マルクス主義』レーニン主義の戦勝行進、世界的規模におけるその正當さの實踐的證明である！

顧みればロシア・プロレタリアートが政權を××した時は、ロシアは資本主義の發達といふ點では後進諸國

の一つであつた。もつとひどいことには、この後進國は戦争により、ブルジョアジーの誤れる經濟及び怠業により完全に弱り切らされ、工業は攪亂され、農業は大土地所有者によつて吸盡され、立ち遅れた手段によつて經營され、労働諸力は戦争によつて取りあげられ、完全に困憊してゐた。ロシア・プロレタリアートは、この立ち遅れた國を社會主義の最初の××に轉化せしめんと勇敢なる任務をとつたのである。

この間、社會民主々義者の側から加へられた非難に曰く、ロシアは再び資本主義に入り込みつゝあると。たとへばオットー・パウエルはいふ——「工業の社會化ではなくて農業の合理化が、都市及び農村におけるロシア民衆の生活程度を高める最重要なる手段である。農業の合理化はしかし、農民の文化水準の上昇を前提とする。……しかし農民が文化的に集約經營へ成熟することになれば、工業プロレタリアートの獨裁に堪へ難く感ずるに至るであらう。それが工業の社會化を速めることによつてではなく、實は農民の文化的向上を意圖するの程度に應じてのみ、ロシアにおける獨裁は労働の生産性を促進し、民衆の生活程度を高めうる。だが正にそのことによつて獨裁は同時にそれ自身の生存の基礎と共に崩壊する、即ち獨裁が農民をより高き文化水準に引上げるときに、それはそれ自身で將來のデモクラシーの土臺を造るのである」と。即ちロシアにおけるプロレタリアートの獨裁はかういふ結果になる。農民の文化水準の向上なくしては労働の生産性の向上は可能でない、だが農民の文化水準が上昇すれば獨裁そのもの、「それ自身の生存の基礎」が崩壊する、そして農民民主々義に席をゆづる。農民民主々義はしかし資本主義を意味する。かくて結局ボルシェヴィキは再び資本主義を造

り出す、とかういふのである。

だがパウエル・カウツキー會社の如上の疑惑と非難とを尻目にかけてソヴェート同盟では、謂ゆる「經濟戰線の個々の斷層における攻勢から全線にわたる攻勢への社會主義的進軍」が發展した。第十六回黨大會においてスターリンはいふた——「第十四回黨大會は主として工業化の黨大會であつた。第十五回黨大會は主として共營化の黨大會であつた。それは總攻撃のための準備であつた。過去の諸階梯から區別すれば、第十六回黨大會以前の時期は全戰線における社會主義の一般的攻勢の一時期、工業の領域並びに農業の領域における社會主義の強化されたる建設の一時期である。第十六回黨大會は全戰線における社會主義の完成せる攻勢の黨大會、階級としてのクラーカ層の掃蕩及び残りなき共同經營化の實現の黨大會である」と。

第十六回黨大會の後ち一箇年半は經過した。ロシア・プロレタリアートはその巨人的な成果に早くも凱歌をあげうることとなつた。即ち第一次五箇年計畫の根本的且つ決定的な諸成果は、第十七回黨大會の決議に次のやうに示されてゐるのだ——

「前時期において吾々の重工業はかたく足場の上に打ち建てられ、全國民經濟の再建の完了化のため、土臺、社會主義的重機械工業の土臺は築きあげられた。同時に輕工業は著しく成長し、生活資料工業の發展テンポは五箇年計畫の任務を遙かに凌駕してゐる。

農業においては根本的な回轉——貧農並びに中農大衆の社會主義への終局的轉向にその表現を見出す——が

進行した。社會主義的諸形態（國營農場及び共同經營）が農業において支配的な地位を略取した、ソヴェート同盟は小さき且つ最も小さき諸經營の一國から、共同經營化、國營農場の成長、及び機械技術の最廣汎なる適用を基礎として、世界における最も重要な大農業經營の國に轉化した。プロレタリア革命の最重要且つ最困難なる任務を果した社會主義のこの××は世界史的意義を有する。」(Beschlüsse der 17. Parteikonferenz der KPDSU 1932, S. 31 f.)

第一次五個年計畫の、この一般的特性の解明には次の諸材料が役立つであらう――

五個年計畫の各年度における工場工業 *Zensusindustrie* の總生産は百分率で次の數字を示してゐる。即ち一九二八年―一二二・四パーセント、一九二九年―一二四・三パーセント、一九三〇年―一二五・八パーセント、一九三一年―一二一・一パーセント（何れも一九二六―二七年の不變價格において、且つ各前年を常にひとく一〇〇パーセントとして算出）。かくて五個年計畫は成就されてなほ剩りある、一九二九年は六パーセントだけ、一九三〇年は七パーセントだけ、一九三一年は一三パーセントだけ。この常に上昇しつゝある數字はすでにそれだけで、第一次五個年計畫は一九三二年に、即ち五個年計畫の第四年目に完全に成就されるであらうことの一保證である。

工業の再建造は巨人の歩みをもつて前進しつゝある。大工業の根本的な基礎は一九二七―一九三一年の期間に四六・二パーセント成長した。工業の個々の、決定的な部門においては成長指數はなほ一層巨大である。一

九二七年と比すれば決定的工業諸部門は、一九三二年には次の通りの生産上昇を示してゐる。即ち機械工業は五五・五パーセントを、鐵工業は四三・九パーセントを、石炭工業は四七・三パーセントを、石油工業は八一・一パーセントを、電氣工業は六四・二パーセントを、化學工業は八三・四パーセントを。——これを平均すれば六二・六パーセントの成長である。石油並びにゴム工業において、機械建造及び農業機械建造においては、五個年計畫は三個年で成就された。その結果は、今迄は輸入されねばならなかつた多くの機械が今では自國內で造出されて居ること、そしてソヴェート同盟は、第十四回黨大會でスターリンが宣明せる綱領に適應しながら、「機械を輸入する國から機械を生産する國へ」變ることである。これは終局的にソヴェート同盟の經濟的獨立を確保し、資本主義的世界經濟の一附屬物への轉化を妨げ且つソヴェート同盟の擁護能力を強めるものである。

社會主義國の擴張再生産は一九二八―二九年には一一・二パーセントを、一九二九―三〇年には三七・七パーセントを高めた。かやうにしてそれは人類史上未聞のテンポをもつて前進した。——周知の通り、資本主義においては資本の有機的組成の發展、即ち新規の成長せる労働手段及び技術の導入は、絶對的貧困化の進展、産業豫備軍の成長、諸勞賃の低落、プロレタリアートの貧困窮迫及び失業の増大を意味する。これに反して社會主義國における擴張再生産は、労働者階級の福祉の不斷の増大及び失業の掃蕩を意味するのだ。こゝに兩體制の根本的に異なる特性が明白に示現する。資本主義においては「惡魔的支配者」である生産諸力は、社會主

義國においてはプロレタリアートの「従順なる侍僕」に轉化する（エンゲルス）。

ついで農業においては五個年計畫の四年の初めに、社會主義部門は私經濟部門を絶對的に凌駕した（農民の六二パーセントは共同經營化された）。「農民民主主義」の代りに、オットー・バウエル會社のデモクラシーの代りに、ソヴェート同盟における農民は終結的に社會主義の側に轉向したのである。これと關聯してこの國の總經營における私的部門の割前は絶對的にも相對的にも減少した。即ち一九二八年には四七・三パーセントに、一九二九年には三八・九パーセントに、一九三〇年には二七・八パーセントに、一九三一年には一八・五パーセントに、そして一九三二年には九・三パーセント（農業をも含めて）に。

最後に國民所得は今まで例のない規模で成長してゐる。一九二六―二七年の不變價格で表現すれば、一九二九年には二八八億ルーベルに、一九三〇年には三三三億ルーベルに、一九三一年には三八一億ルーベルに上つた。一九三二年には更に四九四億ルーベルへの増大が計畫されてゐる。

かゝる事實の前には、五個年計畫の成就されないことは「確かだ」といふカウツキー及びバウエルの「確信」は、簡單に一笑に付せらるべきである。そればかりではなく、ソヴェートは國家資本主義だといふ彼等の説の不當なることは明白だ。社會主義はかたく足場の上に立つてゐる！ 社會主義的工業の強力なる成長と農民經營の共同化と共に、ソヴェート・ロシアは社會主義の時期に入り込んだ。レーニンが國家資本主義に關聯して述べた社會主義への移行の最重要なる諸豫件は充分に充された。かくてロシア・プロレタリアートは第二の五



個年において、ソヴェート・ロシアにおける諸階級を完全に廢絶し且つ階級構成の源泉を終結的に閉塞せんとする政治的任務を樹立することが出来たのである。

「第一次五個年計畫の社會主義的建設の最重要なる成果は」——と第十七回黨會議の決議はいふてゐる——  
「農村における資本主義の根元の終結的廢絶である。といふのは資本主義的諸要素の完全なる掃蕩及び諸階級の完全なる廢絶が豫め決定されたことを意味する。社會主義の基礎がソヴェート同盟で完了したといふことは、『誰れが誰れを』といふレーニンの問ひが都市にも農村にも完全に且つ取消し難く、資本主義には反對に社會主義には有利に、決定されたことである。」(Beschlüsse, S. 32.)

又曰く「第十七回黨會議の意見では、本國の巨大なる自然の富源、社會主義的建設のボルシェヴィキ的テンポ、最廣汎なる労働者及び共營化農民大衆の成長せる活動力、及び黨の正しき指針は、以つてソヴェート同盟における資本主義的諸要素を終結的に掃蕩せしめるやうな社會主義的經濟の生産諸力の發展を、第二次五個年計畫において確保する。本會議の意見では、第二次五個年計畫の基本的な政治的任務は資本主義的諸要素及び階級一般の終結的掃蕩、階級差別及び搾取を醸成する諸原因の完全なる廢絶、經濟における及び人間の意識における資本主義の殘滓の克服、本國の全勤勞人口の、階級なき社會主義社會の意識的且つ發動的建設者への轉化、これらである。」(Beschlüsse, S. 34)

かくてロシア・プロレタリアートの××の結果として、ソヴェート同盟の生産諸力の、より以上の巨大なる

成長の根基の上に、第二の五個年の後には、番に技術の點でヨーロッパにおける第一等國として立つであらうばかりでなく、そこでは何の階級も何の階級差別も存せざる所の、そしてそこでは都市と農村との對立の完全なる掃蕩やツァーリズムの時代に抑壓されたる國民の經濟的並びに文化的立ち遅れの終局的掃蕩や、肉體的勞働と精神的勞働との差別の徐々なる絶廢や、その他等々の、今後の困難なる諸任務への仕事に必要なすべて豫備諸條件が存在するであらう所の、世界の最初の國となるであらう。

知られる通りマルクスは共產主義の二段階を區別し、ついでレーニンはその第一段階を社會主義、第二段階を共產主義と名づけた。兩者はどう異なるか？ 根本的差異はかうだ、即ち第一段階たる社會主義は資本主義から成長した一社會であり、第二段階たる共產主義は第一段階の土臺の上に、社會主義の土臺の上に、かくて独自の土臺の上に發展する。従つて、社會主義の段階においてはなほ資本主義の殘滓が經濟的並びに他の諸方面に存在するのは不可避的であるばかりでなく、社會主義は資本主義によつて造出せられた生産諸力の状態をその出發點とするものである。

このことは、ロシアにおける資本主義の立ち遅れに關する社會ファシスト的饒舌の全無恥を照明する。ソヴェート・ロシアは、最も發展したる諸國における資本主義により到達せられた技術的土臺の上に、社會主義を建設するの可能性を有してゐるのだ。それだからスローガンに曰く「追ひ付き、追ひ越せ」と。資本主義において到達せられた生産諸力の高さは、かくて、資本家による生産手段並びに生産物の領有に終りを告げしめ生

産手段を社會化するに充分である、だが充分でないのは、かゝる生産手段のこれ以上の發展なくして直ちに、「各人はその能力に應じて、各人にはその欲望に従つて」といふ根本原則が支配すべき完全共產主義（共產主義の第二段階）を實現せんとすることだ。生産諸力の比較的に不充分なる發展のために、こゝではなほ労働が嚴重に管理せられねばならない。搾取は廢止され、社會の各成員は社會主義社會の一労働者となる（非労働者はもはや存しない）。

マルクス及びレーニンによつて仔細に描寫されたこの社會主義社會秩序の輪郭は、ソヴェート・ロシアにおいてすでに今日見えるところだ。諸資本家の收奪は生産諸力のこの巨人的な發展の基礎である。プロレタリアートは、資本家的私有財産及び抑壓の桎梏から解放されて、新しい労働科學を育成し、労働の新しい諸形態は成立し、創造力の、労働歡喜の、熱狂の、新しい諸源泉は、到るところで迸出してゐる。農民は、プロレタリアートの指導の下に、そこへ階級社會によつて突き落された所の、そしてそれが農民をして「近代社會の穴居民」（マルクス）たらしめた所の、何千年かの長い間の野蕃から自からを解放する。資本主義においては工業と農業との均齊的な發展を不可能ならしめた諸原因は消滅し、そして農業の巨人的な發展が始まる。農業の機械化及び共同經營化に基づいて、彼れの零細な私有財産に頑迷にも執着してをる農民から、社會主義社會の意識的建設者が生ずる。今日なほ存在するプロレタリアートと農民との差別、それは完全なる共同經營化に至るまでなほ大いに残るものだが、この差別が消滅し始める。共同經營化された農民は、この差別の消滅に導くところ

ろの道を乗り越えたのである。第二次五個年の終りまでには、すべての勤勞者は社會主義社會の意識的勞働者に轉化し了へるであらう。

第二次五個年の終りには、吾々はマルクス及びレーニンが描寫したやうな社會主義社會を、地球の六分の一の上で實現することとならう、それから共產主義のより高き段階への發展が始まり得る。

## 二、『階級なき社會の建設——第二次五個年計畫の基本任務』

第十七回黨會議の決議は異常なる世界史的意義を有する、けだしそれは階級なき社會の建設を實踐的任務として打ちたてたからである。ところで、この第二次五個年計畫の任務の問題は第一次五個年計畫の成果から切り離して取扱はれえない、後者の成果にもとづいてのみ前者の任務は可能となるからである。

第一次五個年のうち一九三一年は第三の決定的年度であつて、社會主義經濟の建設といふその任務は完全に成就された。資本主義世界が最深刻なる恐慌によつて震撼されてをる間に、ソヴェート・ロシアの經濟は嵐の如きテンポをもつて前進した。社會主義的工業の生産の増大は一九三一年には（その前年に比し）二〇・五パーセントに、重工業だけでは二八・七パーセントに上つた。この成長のテンポは、どこの一つの資本主義國をとつてみても、その最上の開花期における工業の成長テンポの二倍半乃至三倍に相當するのだ。

總生産は元來の豫定では一九六億ルーベルだつたが、これが一九三一年には二七〇億ルーベルに上つた。農

業における共同經營化のテンポは、計畫では二〇パーセント、それが一九三一年には六二・四パーセントに、しかも播種面積の上では八〇パーセントが共營化された。機械建造は前年に比して四〇パーセントに、作業機械では七三パーセントに上つた。電気工業は四三パーセント、電気力も同じく四三パーセント、石油工業は二二パーセントを増した。民衆の主要消費對象では一二パーセントの増大を見た。

一九三二年においては生産成長のテンポは更に一層急速であり、一九三一年に比すれば三六パーセントの工業成長を見るだらう。第十七回黨會議の決議では、「一九三二年に對する全國民經濟的計畫の最重要なる任務は冶金、石炭、及び機械建造の領域における生産<sup>II</sup>及び建造綱領の遂行にある。」と記されてをるが、製鐵業の領域においては一九三二年に銑鐵九〇〇萬噸、鋼鐵九五〇萬噸、棒鐵六六〇萬噸が豫定されてゐる。これを一九三一年計畫の遂行成績に比すると四〇〇萬噸以上の増大となるわけで、この増大額は一九一三年におけるツアー時代のロシアの生産にひとしい。これを最重要なる資本主義諸國の、しかもその成長の最上の諸年をとつて比較するとかうだ。イギリスでは四五〇萬噸の銑鐵の増加には三十五個年を要し、より急速なるテンポで成長したドイツでは十個年を、そしてアメリカでは八個年を要した。だがソヴェート・ロシアはこの距離を一個年で通過せねばならない。

かくて第一次五個年において全線的に達せられた諸成果の基礎は工業化政策、重工業の興隆、生産手段の生産の成長である。しかもこれは、第二の五個年において果さるべき全國民經濟の再建の完了化を約束する本來

の土臺たるものである。その上、第一次五個年の成果としてソヴェート同盟は「小さき且つ最も小さき土地所有の一國から最大の土地所有の國に轉化した。農業においては今や共同經營と國營農場との社會主義的諸形態が支配してゐる。」反革命的トロツキズムの誤謬は決定的に明かにされたのだ。

トロツキズムは、一國における社會主義の建設は不可能であるとの反革命的ブルジョアジーのテーゼをもつて登場した。國內におけるブルジョアジーの前に、及び世界ブルジョアジーの前に労働者階級の武装を解かんとするトロツキズムの此のブルジョアの理論の破却の後にのみ、勝利は得られ、社會主義的建設の領域における決定的諸成果は達し得られたのだ。黨を誹謗したトロツキーは、第一次五個年計畫を、そこでは「反プロレタリア的諸傾向が支配する」ところの、即ち資本家的階級の諸傾向が支配する所の一計畫と評價した。だが吾々は反對に、遂行された五個年計畫の成果に、反プロレタリア的階級、資本家的諸要素が紛碎されたのを見る。

もしも黨が、社會主義の建設に農民層（貧農及び中農）を獲得することが可能であるとの、農業における社會主義的改變及びプロレタリアートによるその指導が不可能であるとの、反革命的トロツキズムのテーゼを紛碎しなかつたとしたら、黨は農村における社會主義的改變を實現し、第一次五個年計畫において大體、寄生的階級の掃蕩を達し得なかつたであらう。社會主義的部門が農村において六二・四パーセントの共同化農民經營と八〇パーセントの播種面積とを占めて居る事實は、農民層を社會主義の道に引き入れることが労働者階級

にとつて不可能だとする反革命的トロツキズムスの理論を完全に破壊してゐる。

さて第一次五個年計畫の諸成果は第二次五個年計畫の主任務の成就を條件づけるものであるが、後者はすでに述べたやうに、階級なき社會の建設といふことである。こゝで階級なき社會の建設とは、云ひかへれば社會主義の建設といふことであつて、いまだ完全共產主義の建設を任務とするのではない。階級なき社會にこの二段階あることはマルクス及びレーニンによつて夙に明確に規定された。これによると、完全共產主義は次の基本的諸モメントによつて特徴づけられる。

- 一、生産手段の私有の廢除（これは社會主義でも同じだ）。
- 二、分配は、「各人はその能力に應じて、各人にはその欲望に應じて」といふ原則に従ふ。
- 三、筋肉労働と精神労働との差別の止揚。

この共產主義の段階、即ち階級なき社會の絶對的に完全なる成長の段階は、人間のすべての欲望を完全に保障する生産諸力の發展を必要とし、且つ同時に人間そのものゝ改變の完了化を要求する。最高の段階へは、人間はすでに改變せられ新しく教育せられて、新しい人間としてゆき着かねばならない。このモメントをレーニンは、共產主義のブルジョアの誹謗の假面を剥ぎとる際に極めて明確に力調した。すべてのブルジョアの辯護者は、力をこめて共產主義の空想を指示せんとし次の論難を掲げる。曰く、共產主義が實現する場合、各人がその欲望に従つて取得するとはいかにして可能であるか。さうすれば各人はあらゆるもの、そして出来るだけ多

くを自己のために要求するだらう、そして結果は、その社會に、人間の諸欲望を充たすべき物質的源泉が不足することとならう、と。こゝからしてブルジョアのイデオローゲンは、共產主義は一の空想であると論結するのである。だがそれは、共產主義の敵の一誹謗、人間社會の發展の最高段階の、共產主義的段階の、歪曲されたる叙述以外の何ものでもない。なぜならば共產主義は、レーニンが云ふやうにそこでは「ただ資本主義の貪慾なる辯護が謬着して居るにすぎない」やうな、かゝるブルジョアの諸見解並びに諸觀念によつて特徴づけられない、共產主義は新しい人間によつて、労働への新しい關係によつて、生産諸力の思ひもよらぬ成長によつて特徴づけられるからだ。この改變、新しい人間の創造は、間斷なく吾々の眼前に行はれつゝある。その最上の證左としては、社會主義的大衆競争及び突撃隊労働の成長の格外的なテンポが役立ち得よう。

次に共產主義のより低き段階、レーニンの謂ゆる社會主義の段階——その建設を第二次五個年計畫は目ざしてゐる——の特徴づけについては、次のモメントが注意せられねばならない。即ち、社會主義の下では吾々は生産手段の私有の止揚をもつ、従つて吾々は諸階級の止揚、従つて階級なき社會をもつ、だが社會主義社會の生産諸力は未だ必ずしも、第二段階への、完全共產主義への移行を保障するほどには成長してゐないことだ。人間はいまだ完全に自からを改變して居らず、いまだ舊時の殘滓から、資本主義の殘滓から、自からを解き放つてゐない。この段階においては分配は労働の量に従つて行はれる、従つてそれは一定の不平等を造り出す。だがこの不平等はすでにもはや階級的ではない、實は諸力の、天賦の、及び等々の不平等から發出するのであ



る。

第二次五個年計畫において吾々は、階級なき社會主義社會の建設を基本任務となすことにより、諸階級と、及び階級差別を條件づける諸原因とを、即ち何はにおいても生産手段の私有を止揚してしまふであらう。そしてこのことは、第一次五個年計畫の成果に基づいてのみ可能である。しからば、いかなる諸成果がそこにあるか？

吾々はすでに第一次五個年計畫の終りには一切の生産手段、一切の収益の九〇パーセントを社會化的部門の手中にもつこととならう。その手中には大工業の一〇〇パーセント、小工業の九〇パーセント、國家商業の九八パーセントまでは集中されるであらうし、また農業における社會化的部門は七五パーセントに上るであらう。かゝる仕方では、階級差別を造り出す第一の決定的諸條件の止揚、即ち生産手段の私有の止揚が十二分に、第一次五個年計畫の諸成果によつて確保せられ、そしてこれが第二次五個年計畫において完全に實現されるであらう。

同様に資本主義的諸要素の、及び資本主義の基本的な土臺たり最重要なる支柱たる農村クーク層の止揚は、第一次五個年計畫の終りにはすでに大體實現されよう。一九三二—三三年には共同經營化の貫徹と、及びその基礎の上に階級としてのクーク層の廢絶とが完了されよう。資本家的諸要素たるクーク層は一九二八年の國民所得においては一四・六パーセントの比重をもつてゐたが、一九三二年には僅かに〇・一パーセント

を算するに過ぎぬであらう。同時に、國民所得への私的部門の分け前は一九三三年の終りには九・三パーセントに落つることもまた注意せられねばならない。

第二次五個年計畫において目ざされた社會主義の建設、階級なき社會の建設は、以上二つの最重要なるモメントの外に、云ひかへれば生産手段の私有の止揚と資本家的諸要素の、その殘滓の掃蕩の外に、今一つ農民層と労働者階級との間の階級差別の止揚を意味する。しかもこの差別の止揚なくしては、階級なき社會の實現は不可能である。

レーニンはこの點を、一九二一年、全露交通會議の席上で行ふた彼れの演説のうちで、特に明確に力調して云ふた——「私が今、諸君の議室を通つたとき、一枚の貼札に出會ふた、その題言に曰く、『労働者と農民との支配は終りなからん』と。そして私がこの特色ある貼札を讀んだとき、この貼札は決して他の場所にはなく、隅つこに掲げられてあつたが、——多分誰れかが、この貼札の適切でなかつたのに氣がついて、それを後方へ引移したのだらう——ともかく私がこの注意すべき貼札を讀んだとき、私は思ふた、『いかに初端的且つ基本的な事柄について、吾々の間には誤解と謬見とが存するか』と。事實、もし労働者と農民との支配が終りをもたなかつたならば、それはとりもなほさず、社會主義は決して存しないであらうことを意味する。なぜならば、社會主義は諸階級の止揚を意味するのであつて、労働者と農民とが止めぬ限り諸階級もまた殘存することとなり、やがてまた完全なる社會主義は存し得ないこととなるからである。』」

より明確にこのモメントを特徴づけてレーニンは云ふた——「諸階級を止揚せんがためには、第二に労働者と農民との差別を除外せねばならない、人はすべて勤勞者 *Arbeitenden* にならねばならない。」と。正にこの、すべてのもの、「勤勞者」への轉化が、即ち農民層と労働者階級との階級差別の止揚が、第二次五個年計畫において果されようとする。そしてこのことは、農民の社會主義的新教育といふ最重要なる課題の成就が第二次五個年計畫において實現されることを意味する。

農民の社會主義的新教育、社會主義的人間の創造といふ主任務はしかし、階級闘争の修飾された一特殊形態である。従つてソヴェート同盟において今後なほこの形態の階級闘争が鋭化するのは不可避的である。人間の意識における、及び經濟における資本主義の一切の殘滓（平等化や、共同經營の有機的經濟的強化の妨害や、労働科學の妨害や）の克服は、階級闘争の一特殊形態として第二の五個年にますます尖鋭的に成長するであらう。だがこの階級闘争の結果は、必ずや黨員の比較的不安定な個々の層に外部からの諸影響が侵入し、種々なる日和見的離脱と動搖とをひき起すだらう。従つて右翼日和見主義（與へられた段階における主たる危険）との、「左翼」日和見主義との、總便主義者との、反革命的トロツキズムとの、そして怠け者のリベラリズムとの闘争の、これ以上の成長は、第二次五個年計畫において日程から逸し去らない任務となる。

こゝにプロレタリア國家が、第二次五個年計畫において持續され、そして更に強化せられねばならぬ理由がある。といふのは、第二次五個年計畫では社會主義の、——だが、全き共產主義のではなく——建設の任務が

確定されてゐるからだ。エンゲルスの用語を用ふるならば、國家はこの段階ではなほ *absorben* しない。然かなるのは、完全共産主義の下においてのみ、即ち社會が「各人はその能力に應じて、各人にはその欲望に應じて」といふ原則を實現する場合、云ひかへれば人間が共同體生活の根本原則に注意するに慣れ、そして人間が意のままにその能力に應じて労働することが出来るほどそれほど、彼等の労働が生産的となる場合である。

労働生産性の異常なる成長はかやうに、より高き共産主義の段階を確保するにも必要不可欠な物的基礎であるが、より低き段階たる社會主義の建設にもこれは同じことだ。レーニンは云ふ——「労働の生産性は結局最も重要なもの、新社會秩序の××のための主要事である。資本主義は、奴隸制下では決して存しなかつた労働の一生産性を造り出した。資本主義は、社會主義が新規の、遙かにより高き労働生産性を造り出すことによつて、終結的に征服されえ、またされるであらう」と。このためにとられ來つたのが、先進資本主義諸國に「追ひ付き追ひ越せ」のスローガンだが、同時にまたこゝに、第二次五個年計畫において生産性のこれ以上の成長が企圖されてやまぬ理由がある。

× × × ×

今や極めて明瞭に、資本主義經濟に比しての社會主義經濟の進歩が見られる。資本主義諸國、全資本主義世界が最深刻なる工業恐慌に、及びそれともつれ合つた農業恐慌に、そしてまた強力なる金融恐慌に捉へられて居る間に、資本主義諸國における生産が不斷に低下しそして最重要なる資本主義諸國における生産装置が僅か

にその四〇―五〇パーセントが利用されて居るに過ぎず、播種面積は制限されて居る間に、そこでは失業が横溢して四千萬を超える人間を捉へて居る間に、中農及び小農の貧困化がますます増大しつゝある間に、そこでは飢餓と貧困とが支配して居る間に、――こゝソヴェート同盟、社會主義の國は、史上未聞のテンポをもつてその經濟を發展せしめ、第一次五個年計畫を成功裡に完了して階級なき社會の建設といふ任務を第二次五個年計畫において果さうとする。ソヴェート同盟においては勤勞大衆の物質的水準は不斷に増進し、失業は完全に掃蕩され、人口の文化水準は強力に高まりつゝある。かくて吾々は第二次五個年計畫の遂行を俟つて、なほより一層の明瞭さをもつて、社會主義の體制は生産諸力の成長と人間のこれ以上の發展とを確保する唯一無二の體制であることを全世界の前に示現するであらう。

### 結——ソヴェート經濟の發展と資本主義世界

以上、ソヴェート第二次五個年計畫に關する二文献の紹介を終つた。人はこれを通じて、おそらく次の二つの問題を提起するでもあらう。一はソヴェート同盟内部の問題であり、他は對資本主義世界の關聯の問題である。具體的に云へば――

- 一、ソヴェート同盟は次の五個年において果してその基本任務を成就し得るであらうか、
- 二、ソヴェート同盟のこれ以上の經濟發展とプロレタリアート・ヘゲモニーの強化とは資本主義世界の將來

に何をもたらずであらうか。

右のうち第一の問題はソヴェート同盟の將來に關する豫測であるから、正確なる回答は無論不可能である。だが第一次五個年計畫を四年と三個月で、しかも豫期以上の成績でやり遂げたソヴェート同盟の強固な意思と努力とから判定すれば、第二次五個年計畫が單なる綱領倒れるに終るものとは云ひ難いであらう。ソヴェートは必ずや次の計畫をも、たとひ第一次五個年の成長テンポに比すべくもないとしても、とにかく實踐に移して行くだらう。ソヴェート同盟にとつての困難は唯だ、労働者と農民との階級差別の止揚、筋肉労働と精神労働との差別の止揚、といふ一基本任務の遂行にかゝつてゐるやうに思はれる。だがこの一抹の疑念も、詮ずるところブルジョアの觀念の一派生でしかあり得ず、社會主義的建設に狂奔するロシア・プロレタリアートにとつては解決すべく然かく困難な問題でないかも知れない。彼等は彼等自身の存在にもとづいて、彼等自身解決すべき問題を提起するに過ぎぬからである。

右の問題に比すれば、第二の問題はより、差迫つた、われら自身のもつ焦眉の問題である。少くともソヴェート經濟が徐々に萎縮し、資本主義世界の單なる附屬物に轉化しつゝあるとでもいふ確證が掴めない限り、資本主義諸國は對ソヴェートの關係において安如たる存在を保ち得ない。ましてソヴェート經濟が「史上未聞のテンポ」をもつて前進し、限りなき生産諸力の成長を實現してをることが疑ひなき眼前の事實である場合には、資本主義諸國の態度は期せずして一變せざるを得ない。消極的な傍觀から、積極的な干涉への回轉、——しか

もこの態度の回轉は、資本主義世界の枠の中における死活の「正當防衛」でもある。何故か？

姑らくオイゲン・ヴァルガをして語らしめよ。彼れは一九三〇年の初夏『社會主義的建設と××する資本主義』と題する一文を發表した (Varga, Sozialistischer Aufbau—Sterbender Kapitalismus, in: Unter d. Banner d. Marxismus IV. Jahrg. 3. Heft, Juni 1930) が、その中で彼れは、世界における二つの異なる經濟體制——社會主義と資本主義と——が全く相反する方向への發展過程を急ぎながら、しかも階級關係の上では相應する道を進むの外なき所以を説いて次のやうに云ふた。

「これを要約すれば——資本主義の發展は必然に、それを支配して居る大ブルジョアジーの進歩的分離化へ、廣汎なる農民及び小ブルジョア大衆のブルジョアジーからの解放へ、及びこれらの大衆の、ブルジョアジー並に資本主義體制の主敵たるプロレタリアートの指導下への益々増大する下位的編成へ、と導く。

「社會主義への方向におけるソヴェート經濟の發展は必然に、プロレタリアートの土臺の強化及び擴大へ、敵對的階級の殘物の分離へ、プロレタリアートと中農層との間の軋轢面の縮小化へ、諸階級の終局的掃蕩への方向の急速なる一發展へ、と導く。二つの體制の對蹠的な經濟的發展には、かゝる仕方では、階級諸關係の併行しゆく對蹠的發展が相互に對應する。」(Varga, a. a. O. S. 301)

だが、より注意すべき彼れの言説は、資本主義諸國の間における帝國主義的對立關係を述べた後に附加へた次の一節に現はれてゐる。曰く——

「だが然し、個々の資本主義諸國間における諸對立を遙かに越えてゐるのは、資本主義と社會主義との、ブルジョアジートの支配とプロレタリアートの支配との、資本主義世界とソヴェート同盟との基本的對立である。帝國主義的諸對立はなほ然かく深刻であるとはいへ、二つの體制——歴史的過去の體制たる××する資本主義と、ソヴェート同盟において今現に具體的な姿をとつてをる所の人類の歴史的將來の體制たる社會主義との社會的對立は、なほ一層深刻である。ブルジョアジートはソヴェート同盟における社會主義的建設を消極的な觀察者として傍觀することが出来ない、彼等は早かれ遅かれ、社會主義のこれ以上の建設を武力をもつて妨害するの試みを敢行せざるを得ない。ロシアのプロレタリアート——そのものへ歴史は、第一者としてブルジョアジートの羈轡を××し、プロレタリア的××權力を打建て、そして社會主義の建設に着手せんとの、光榮に満ちた任務を課してゐるのだ——は、レーニンの黨の指導の下に、及び世界の×××プロレタリアートの援助を俟つて、國際プロレタリア××の要塞の守備といふ任務をもまた××のうちに果すであらう。」(Varga, a. a. O. S. 302—303. 傍點原文)。

改めて云ふまでもなく、資本主義生産方法の基本矛盾——生産の社會的性質と領有の資本家的形態との矛盾——は、資本主義のそれぞれの段階に應じて種々異なる現象形態をとつて現はれる。資本主義世界とソヴェート同盟との對立は、戦後資本主義の、謂ゆる「資本主義の一般的危機の時期」として特徴づけられる現段階における基本矛盾の最も大きい發現形態である。この矛盾はどうか克服せられねばならない、社會主義の側か



らそれを要求するのは無論だが、資本主義の安定的存続のためにもそれは絶對的に必要である。對蹠的な相剋的な二つの體制は、永きにわたつて一つの世界に併存することを許さない。原理上、兩者は相争ふのほか第二の道を相互に知らないものである。

ソヴェート第二次五個年計畫はかくて、階級なき社會の建設を目ざすことによりそれ自身異常なる世界史的意義を保有すると同時に、その遂行はソヴェート同盟と資本主義世界との對立關係をますます鋭化せしむるの結果とならう。この意味において、資本主義諸國の社會民主々義者、社會ファシスト、市民派經濟學者が近來頻りに論陣を張つて、ソヴェート計畫經濟の「全線」的攻撃を急ぎつゝあるが如き觀を呈してゐるのもまた所以なしとしない。二つの體制の社會的對立は、すでに有數なる一聯の諸學者をソヴェート經濟の倒壞的批判に動員するほど、それほど深化して居るものと見るべきであらう。だが吾々は、これらの批判の多くがなほ深くソヴェート經濟の原理上の難點に觸れて居らず、二年前のヴァルガの言葉をこゝにそのまま繰返して批判家の所説に對せねばならないのは甚だ遺憾である――

「もとより、ソヴェート同盟にも經濟的諸困難はある！ 勿論だ。だがこれらの諸困難は經濟の構造から己むを得ず出で来るのではない、（恰かも資本主義の諸矛盾がその體制の發展と共に鋭化せざるを得ないと同じやうに）社會主義原理のこれ以上の發展と共に増大するのではない。反對に、それらは體制の不完成さから發出するのだ。それらは、ソヴェート同盟の經濟の社會主義原理の結果ではなく、この原理がなほ充全なる完成に

達し得てゐないといふ事實の結果である。」(Varga, a. a. O. S. 298)

附記。私ほもともとの主題の下で一論文を草する考へて材料を蒐めつゝあつたのだが、構想の最中に病氣になつて論文の執筆に堪へがたく、しかも編輯上の必要はつひに本文のやうな、論文とも資料ともつかぬ形でこゝに掲ぐるの餘儀なきに至らしめた。大方の諒恕を乞ひたい。(三二年十二月三十一日)